

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2516 号

Anatomic resection for hepatocellular carcinoma - Prognostic impact assessed from recurrence treatment

肝細胞癌に対する系統的切除の意義 - 再発治療の重要性に着目した解析

皆川 雅明 (みながわ まさあき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、プロペンシティ・マッチング法 (Propensity score matching; PSM) を用いて、再発治療に焦点を当てた手法で、5cm 以下の初発・小型肝細胞癌に対して解剖学的切除 (Anatomic resection; AR) と非系統的切除 (Non-anatomic resection; NAR) の長期予後と比較した。系統的切除 (亜区域切除; AR) を行うことで再発率を低下させる点 (5 年無再発生存率; AR:62% vs NAR 35%)、また非系統的切除 (NAR) を行っても、再発に対し積極的な局所治療 (再肝切除/RFA; AR 10% vs NAR:42%) を行うことで良好な予後 (5 年全生存率; AR:72% vs NAR:78%) が期待できる点について、PSM を用いて初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。